

あとがき

- **女性だけのアンケートになりました**

地震はどうだったかと聞くと、男性は総じて事実だけを語り、何を思ったかを語りません。とくに、どれくらい怖かったかというより、いかに鎮静に振る舞ったかを強調します。結果はそうだったかもしれませんが、おしゃべりな人は逐一語ってくれるので何が何してどうなったかがよくわかります。このようなアンケートはおしゃべり大歓迎。話し好きは女性に多いので、女性だけという結果になってしまいました。「そのとき」の場所は、自宅 11 人、職場 9 人、出先 7 人といろいろでした。

- **一番怖いのは一人だけのとき**

今回、東京圏で地震に遭った人のほとんどは、生涯で一番大きな揺れを経験したことでしょう。そのとき、一人でいる場合にもっとも不安を感じたようです。震災の後、結婚を考える人が増えたというニュースがありましたが、わかる気がします。「人の絆」というのは、手の届くところに人がいることなのですね。

- **いざというときになってわかったこと**

今回の地震により東京圏でわかったこと。一つは携帯電話がいかに役立たずかということ。また一つは、徒歩のいっせい帰宅がいかに混乱を巻き起こすかということ。そして地震のとき、建物の外へ出ればいかに危険が多いかということも。さらに、モノがこわれた被害がありましたが、「断捨離」でモノ自体を減らすことも大事。今回の地震は被害がそれほどなくとも、このようなことに気付くチャンスを与えてくれました。ただ、のど元過ぎれば熱さを忘れる人の多いのも確か。

- **危険に対して敏感たれ**

一人でいることが多い人、情報が得にくい人、このような方々は要注意。また、齢を取ると総じて危険の察知能力が下がります。私自身傘寿を迎え、いかに予感・認知・行動の速やかなことが大事かを痛感しています。社会心理的には、騒ぎ立てる方が危機を回避することになるとか。我慢強い日本人は考えものです。

このたびの地震アンケートに快くご回答くださった各位、および森下恒子役員に厚く御礼申し上げます。

サノックス代表 佐野陽子 2011年9月11日
